

第24回 ディサービスにおける「自立支援」の時流



(株)スター・コンサルティンググループ  
糠谷和弘 代表コンサルタント  
<http://www.s-cg.co.jp>

「業績向上」を最重要テーマとした  
「現場主義」のコンサルティング会社。

介護事業経営専門のコンサルティング会社を立ち上げ、「地域一番」の介護事業者を創り上げることを目指した活動に注力。20年間で450法人以上の介護事業者へのサポート実績を持つ。書籍に「介護施設設立リーダーの教科書（PHP）」などがある。

今夏「あのディサービスセンターには、なぜ人が集まるのか?」といふ本を、PHP研究所から出版予定です。全国からユニークな取り組みをする15施設を、紹介する予定です。その本では、一般社団法人日本ディサービス協会が主催する「サービスの選2002」に選出されたらうの施設も掲載します。

執筆のための取材を進める中で、これから的是 サービスに必要ないくつかのポイントが見えてきました。今回は「自立支援」について、取り上げてみたいと思います。

デイサービス施設長の皆さんは、ぜひご観察の施設と比較してみてください。

◆機能訓練だけでは差別化できない

しかし前提としては、在宅生活をできる限り延伸するための「自立支援」の機能があるべきです。ここで「機能訓練」といふ言葉を使わなかったのは、今回取材した施設のすべてが“身体機能向上”だけを目的としておらず、自宅での生活課題の解決、さらには社会活

◆ニーズとマッチングを重視する  
が必要だと思いました。  
では差別化にならず  
アセスメントで、利用者  
者の「できること」(課題)  
題」や「やりたいこと  
(目標)」を聞き取るの  
とは、重要な業務です。  
しかし利用者から語られ

◆本音語彙に「」の緑色  
合わせで  
今回の取材で、デイサ  
ービスで行われる機能訓  
練には、3つの種類が必  
要だと痛感しました。

①セルフトレーニング

②個別（グループ）トレー  
ーニング

③自生（自宅）トレーニ  
ング

「セルフトレーニン  
グ」は、活動量の基礎をつくるものです。リハビ

い機会を経て活動が行  
てはいましたが、それだけでは活動量が足りない  
ため、生活課題別にグル  
ープをつくり、介護職  
が中心に行っている施設  
も多くありました。

そして、最後の「自主  
トレ」です。デイサービ  
スセンターの利用者は、  
どうしても要支援～要  
介護2程度の軽・中度の  
方が多く、週2回程度の  
頻度で通所する方がほと  
んどです。前述の通り、デイサー  
ビスに与えられた使命  
は、ICOFで言う「生活  
機能（心身機能・身体構  
造）」の向上だけではあ  
りません。最終的には  
「役割」を持ち、社会に  
「参加」するところまで

介護 B i g

になるためには、「効果

七

ています。取材先では主にいたことです。施設内の

卷之三

九月三十日

事や、入浴サービスを提  
供する、多様なサービ

的訓練】以上の「何か」

機能訓練の組み

に機能訓練指導員が行つ  
サービスに留まらず、田  
中（ミタカ）・山（ヤマ）・上（ヒル）

## 機能訓練だけでは差別化にならず

◆二ーズと「マンド」を意識する  
が必要だと感じました。  
15施設に共通していた  
ことは、アセスメントと  
目標設定の目的が明確な  
ことです。  
アセスメントで利用  
者の「できなんじ」と(課  
題)」や「やりたいこと  
(目標)」を聞き取るい  
とは、重要な業務です。  
しかし利用者から語られ  
るそれらの要望は、實際  
に自立するための本質と  
はずれているかもしれません  
せん。アセスメントでは  
「二ーズ」と「デマン  
ド」の違いを理解し、言  
葉にされない「二ーズ」  
の方を探らなくてはいけ  
ない。そしてその上位  
達成可能な目標を設定す  
べきだと、取材時には異  
口同音に語つてしま  
う。「個別(グループ)ト  
レーニング」は、ほとん  
どのデイサービスが行つ

今回の取材で、ディサ  
ーブで行われる機能訓  
練には、3つの種類が必  
要だと痛感しました。

①セルフトレーニング  
②個別(グループ)トレ  
ーニング  
③皿室(皿室)トレーニ  
ング

「セルフトレーニン  
グ」は、活動量の基礎を  
つくるものです。リハビ  
リマンシや様々な訓練器  
具で、それぞれの状態に  
合わせて訓練していくだ  
けます。訓練項目には、  
運動だけでなく「脳トレ  
ーニング」、「巧敏動  
作訓練(0分)」のように、  
ノルマを決めて行ってい  
るところもあきました。

ではいましたが、それだけでは活動量が足りないため、生活課題別にグループをつくりて、介護職が中心に行っている施設が多くありました。

そして、最後の「自主トレ」です。デイサービスセンターの利用者は、どうしても要支援～要介護2程度の軽・中度の方が多く、週2回程度の頻度で通所する方がほとんどです。しかしそれだけでは、大きな回復は期待できません。

そこで、通所しない日に個別に宿題を出して、自主トレをしていただきている施設が多くあります。

◆活動と参加

今回最も印象的だったのが、IOC（国際生活機能分類）が浸透して

常生活における「活動」と「参加」のとくのまでは、「フォローしていくことで、自分が、時代の流れを感じました。

前述の通り、デイサービスに与えられた使命は、IOCで言う「生活機能（心身機能・身体構造）」の向上だけではありません。最終的には「役割」を持ち、社会に「参加」するところまで支援すべきです。しかし実際には、なかなかできることではありません。

それが浸透し、やりきれていくところが、15施設の強みだと感じました。

現在、介護業界で競争が最も激しいのがデイサービス事業です。ぜひ、これらの施設をお手本にしていただきたいと思います。